**中性院**

江戸時代（1603年～1867年)まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の12の寺院で生活し、修行を積んでいました。中性院は、現存する4つの寺院の1つです。中性院の御本尊は、阿弥陀如来です。阿弥陀如来の役割の1つは、亡き者の魂を極楽へ導くことです。堂の背後には、出羽国（現在の山形）の領主であった戸沢家の墓碑が立っています。寺院の向かい側には、山形藩の有力な大名であった最上義光（1546年～1614年）の碑が立っています。堂の前には、賓頭盧像があり、蓮華座で足を組んで座っています。病を負った信者は、病を治す賓頭盧のご利益にあずかれるよう願って、仏像の体の自分の患部と同じところを撫でます。